はじめに

島根県埋蔵文化財調査センターでは，国土交通省から委託を受けて，平成 11 年度から尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施しています。

今年度は，4 月から奥出雲町佐白の原田遺跡，同町三沢の林原遺跡の発掘調査を進め，林原遺跡は 6 月に現地調査を終了し，縄文時代後期（約 4，000～3，000 年前）の配石墓などが発見されました。

原田遺跡では，後期旧石器時代（約 3 万年前）から中世（約 400 年前）までの遺構や遺物がみつかっています。このうち，三瓶浮布火山灰層（約 16,000 年前に噴火）の上層と下層，姶良丹沢（あいらたんざわ）火山灰層（約 24,000 年前に噴火）の下層から遺構や遺物が確認されました。

今回は，原田遺跡で現地説明会を開催し，原田遺跡の発掘現場と旧石器時代の出土遺物と，合わせて林原遺跡で出土した遺物も皆様にご覧いただきたいと思います。

なお，最後になりましたが，調査にあたってご協力いただきました地元の方々をはじめ，国土交通省，奥出雲町教育委員会ならびに関係の皆様方に厚くお礼申し上げます。

原田遺跡の旧石器時代

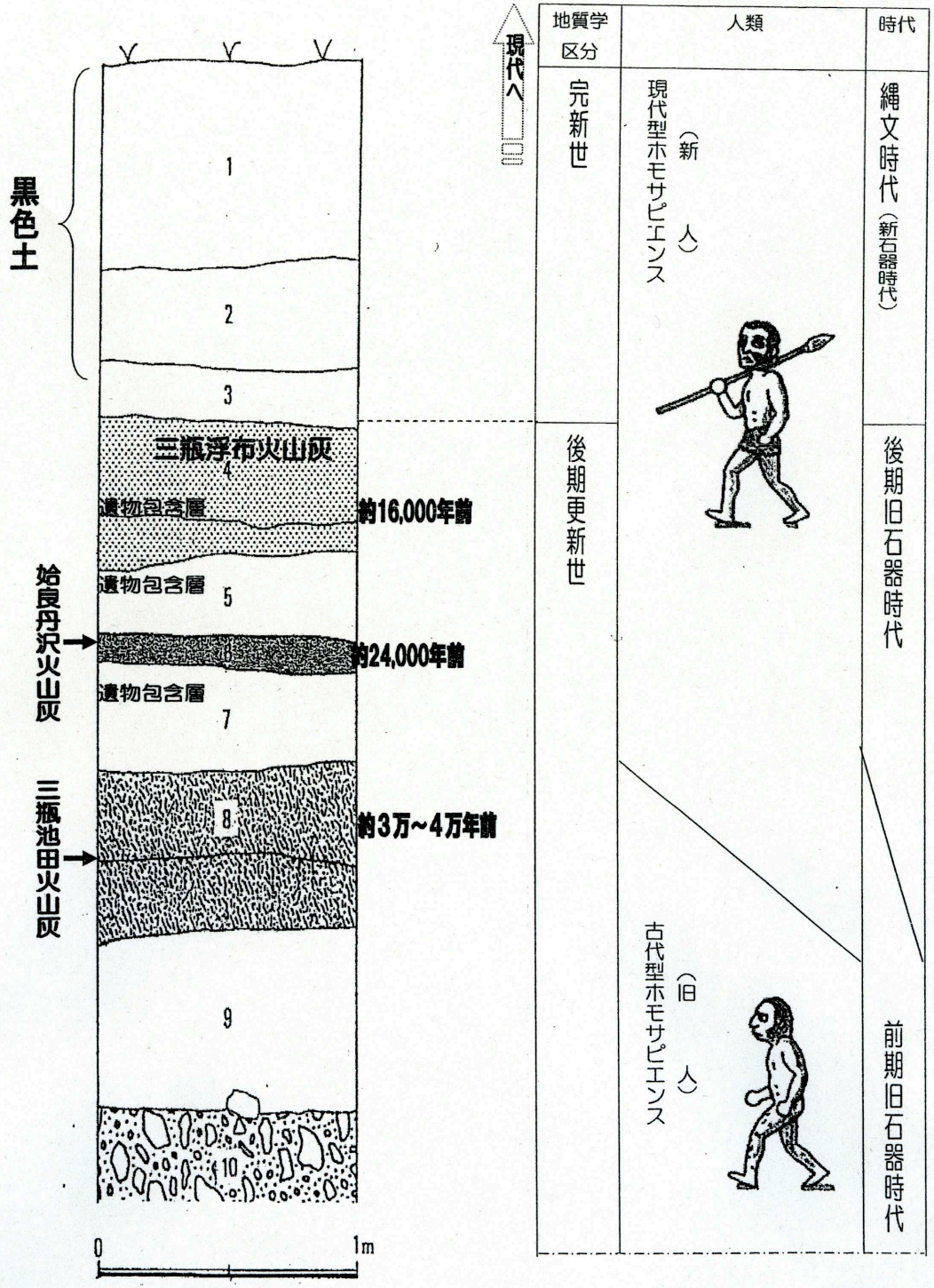
旧石器時代とは，人類が石器を作り始めた約 250 万年前から土器を作り始める 1 万 2,000 年前までの時代です。島根県で発見されている旧石器時代の遺跡は，すべてが後期旧石器時代（3 万～1 万 2,000 年前）のもので，原田遺跡も同じ頃です。

★　環境から

最終氷期（12 万～1 万 2,000 年前）と言われ，今の平均気温より約 7 度低い寒冷な気候でした。そのため，氷河が発達し，隠岐諸島とは陸続きになっていました。また，ナウマンゾウ・ヘラジカ・ヒグマが日本列島に棲息していました。

旧石器時代は地質学的に言うと「更新世（こうしんせい）」にあたりますが，この時代は，日本の火山が今よりも非常に激しい活動を繰り返した時代でもあります。そのため，地層を見ると，様々な火山灰が堆積していますが，約 24,000 年前に鹿児島の火山で噴火した姶良丹沢（あいらたんざわ）火山灰（AT）は，北は北海道まで広がりました。これらの火山灰層が鍵となって，出土する遺物の年代を決定づけることができます。

★　発掘状況から

原田遺跡からは，三瓶浮布火山灰（約 16,000 年前に噴火）の上層と下層，姶良丹沢火山灰の下層の３つの土層から遺構や遺物が確認されました。遺構としては，墓の可能性のある土坑 1 基，石器を製作した跡と考えられる「石器ブロック」が 10 カ所以上，調理に使用されたと考えられる「礫群（れきぐん）」50 基以上，炉跡と考えられる「炭化物集中地点」が７カ所見つかっています。

遺物としては，島根県最古の「石斧（せきふ）」，瀬戸内地方の影響を受けて作られた「ナイフ形石器」，製品を作る前の素材やクズなどがあります。使用された石材は，安山岩，黒曜石，石英，水晶，碧玉，メノウなど多彩です。